

ななむら

第72号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和3年6月1日現在

世帯数 525世帯

人口 1,451人

(男674人、女777人)

「照来地区公民館推進委員会」を開催！

6月2日に「照来地区公民館推進委員会」を開催し、本年度の事業計画等について協議いただきました。
「公民館推進委員会」とは、照来地区公民館の円滑な運営を図るため、照来地区内の諸団体の代表者の方々に構成する会です。主に、年間事業計画や事業推進に関する事項を協議していただきます。

令和3年度事業計画

- 毎月定期的に行う事業
 - メディカルヨガ教室
毎月第3火曜日
 - ななむらうぐいす会（カラオケ）
毎月第1・3水曜日
 - 6月 野菜づくり講座（30日（水））
 - 7月 防犯教室
 - 8月 木工教室
 - 9月 健康講座
 - 10月 歴史講座、野菜づくり講座
 - 11月 作品展示会（小さな文化祭）
 - 12月 人権教育研修
 - その他事業
 - 照来フォトコンテスト
 - 照来カレンダーの作成
- ※あくまで予定です。変更もあります。

令和3年度照来地区公民館推進委員

選出区分	役職	氏名
切畑区	区長	岩本孝次
多子区	区長	中井孝吉
桐岡区	区長	坂出裕史
丹土区	区長	杉岡富之
中辻区	区長	西澤章
塩山区	区長	山本忠司
飯野区	区長	中井正
照来まちづくり協議会	会長	坂本明
スポーツクラブ21照来	会長	田淵明夫
青少年育成推進協議会	会長	田中忍
防犯協会照来支部	支部長	坂出裕史
照来地区すこやかクラブ	会長	田淵美幸
婦人会	代表	山本奈々
照来小学校	校長	西岡教敬
照来小学校PTA	会長	長谷坂勝
照来校同窓会	会長	坂本明
切畑区推薦	協力委員	岩本学
多子区推薦	協力委員	宮脇毅
桐岡区推薦	協力委員	長谷阪英之
丹土区推薦	協力委員	小谷豊
中辻区推薦	協力委員	大森晴光
塩山区推薦	協力委員	山本昌一
飯野区推薦	協力委員	村尾諭
照来地区公民館	館長	山本清孝

『桜盆地大作戦』

「照来盆地」ならぬ「桜盆地」大作戦を考えています。景観のすばらしいこの「照来盆地」を更に魅力ある盆地にするため、桜を植栽したいと思っています。植栽場所は、七つの村がつながり合う意味で、七つの村を結ぶ道路の沿線を考えています。また、桜の木については、「日本さくらの会」に寄贈申請をする予定です。（「桜を見る会」ではありませんよ！）決定すれば、またお知らせします。



塩山の桜です

お知らせコーナー

『照来フォトコンテスト』

予告

「照来は良い所ですね」とよく聞かされます。ところが、地元に住んでいる我々には、中々良さを見つけることができません。そこで、その照来の魅力を再発見するには、照来の風景や伝統行事等を写真に撮っていただいたり、



写真を見ていただくということで魅力に気付くのではないかと思います。「照来フォトコンテスト」を考えました。詳細につきましては、後日チラシを配布したいと思います。

「中井啓太君日本選手権へ！」

丹土の中井啓太君（現在、環太平洋大学）が、6月24日～27日にかけて、「大阪ヤンマースタジアム長居」で開催されます「2021日本陸上競技選手権大会」に出場します。出場種目は、800mと1500mで、800mは6月26日に、1500mは6月24日に予選が行われ、テレビ放送もあると思われしますので、皆さん応援してください。

この大会は、東京オリンピックの選考も兼ねており、100mでは先日日本新記録を出した山縣亮太選手も出場します。このような大きな大会に今まで照来から出場した選手は私の記憶ではないと思います。（高校生の大会では、何人か出場しています。）

ただ、この「公民館だより」が配布される頃には、終わっているかもしれません。

戦争の語り部のお願い！

「戦争知らない子供たち」という歌が、1970年代流行しました。この歌は、当時賛否両論ありましたが「戦争を繰り返さない。」という作詞者の思いが認められ、誰もが口ずさむようになりました。

今年で戦後76年を迎えますが、戦後生まれが日本の人口の85%（2019年時点）を占めるようになり、戦争の体験を語れる人が少なくなってきました。この悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにも、照来小学校の子どもたちに戦争の体験を話していただけないかと思ひます。

ご協力いただける方は、ご連絡ください。

照来の歴史(26)～文化財シリーズ～ 『塩山撞木塔婆歌念仏』

町の指定文化財として、照来で最初に指定されたのが『塩山撞木塔婆歌念仏』です。昭和52年12月20日に民俗文化財として指定されました。（前号の「丹土はねそ踊り」は県の指定文化財です。）

仏教行事の一つで、「六斎念仏」に属するものである。

起源については、確固たる史料も文献も無いわけだが、おそらく民俗念仏として徳川時代に行われたであろう。そして、これが当時の農村生活にただ純粋な宗教的行事というだけでなく、レクリエーション的色彩があったことを見逃すわけにはいかない。

行事は、旧暦5月23日の巖山のこもりから7月25日の観音じまいまで、連続して行われる。

こもり行事には、五穀豊穡を祈り、5月の農作業の慰安を兼ねて若人が村芝居をし、氏神様にこもった。次の夜からは念仏通夜で念仏を唱える。

観音じまい行事には、塔婆（7寸角で5m60cm）が建てられ、堂に安置した観音の前で曲り木で作った撞木で念仏鐘をたたき、御詠歌、光明文念仏、結願文念仏を一連のものとし、観音堂⇒撞木塔婆前⇒観音堂と行って終了する。

今日、形骸をとどめなくなったこの「六斎念仏」の行事がここに見られるのは、民俗研究にとって、また、歴史上希有の史料となっていることは間違いないものである。〔新温泉町の文化財一覧より〕

